

劇  
35ミリ  
白黒／48分

- 自主企画
- 監修  
厚生省
- 協賛  
中外製薬株式会社
- 協力  
吹田母子会

スタッフ

- 製作  
村山英治
- 脚本  
柳沢類寿  
大北浜夫  
金子精吾
- 演出  
金子精吾
- 撮影  
佐藤昌道
- 音楽  
神津善行
- 編集  
沼崎梅子
- 助監督  
沢登祥恵
- 製作主任  
片桐直樹

■ 出演

野村やす：山田桂子  
小谷よね：新屋英子  
本多芳枝：  
渡辺富美子  
三山保健所長：  
水野達雄  
同総務課長：  
小倉徳七  
婦人会の幹部：  
松下みち子  
勝田久子：川越茂子  
他

文部省選定 厚生省推薦 東京都教育委員会選定 国民文化会議推薦 第4回教育映画コンクール銀賞

創業初年度に製作した『百人の陽気な女房たち』の続編で、蚊とはえの駆除だけの運動の時代から、地域の様々な問題を総合的に取り上げる保健地区組織活動へと発展したことがわかる。映画は保健文化賞を受けた大阪府の吹田母子会をモデルにした群衆劇で、実際に出演した母子会の会員は1000人をこえた。ロケーション撮影の行なわれた吹田市はこの年、气象台開設以来の連日38度の猛暑で、保健所の室内撮影では撮影用のライトの使用で48度をこえ、保健所の火災報知機が突然鳴りだす一幕もあった。



小学校の身体検査をPTAの母親たちが手伝っていると、保健所長の三山が現れて、本校児童の体位は全国的にみて低く、乳児死亡率も高い、子供の健康を守る母として保健所の活動に協力してほしいと訴えた。日本脳炎で長女を亡くしている野村やすは、すぐにも組織を作ろうと思ったが、小谷よねは相手にせず、PTA副会長の本多芳枝も慎重だった。やすと芳枝は毎日一軒一軒訪ねて母親たちと話し合い、やがて子供の健康を守る母親のグループ〈母子会〉が地域で誕生した。最初の活動は利用者の少ない保健所の乳児相談日に協力することだった。芳枝たちは場所を母親たちが来やすい所に変え、忙しい人のためには会員が赤ん坊を預かったり、店番も引き受けて、三山も舌を巻く盛況になった。しかも股関節脱臼の子供が発見されたりして、母親たちの関心も深まった。〈母子会〉の精力的な活動は、蚊とはえの駆除、寄生虫駆除、物資斡旋と多目的に広がって、活動に参加した母親自身も成長した。やがて結核の住民検診がきっかけで〈母子会〉の組織も全市に拡大され、受診率は市の衛生保健所の予想をはるかにこえて89パーセントに達したのだった。